

## フォーサム 2018 のご案内



**フォーサム 2018東京**

2018年 7月14日(土)～16日(月) 月祝  
 京王プラザホテル

第55回日本眼科学会  
 会長 山田 昌和

第52回日本眼病学会  
 会長 岡田アツル

第61回日本コンタクトレンズ学会  
 会長 山田 昌和

第7回日本遠視・近視学会  
 会長 今野 公士

「見る学ぶ教える繋がる」  
 Best Clinical Practice

株式会社JTBコミュニケーションデザイン  
 〒110-0001 東京都北区豊島3-19-10 豊島ビル4F  
 TEL: 03-5461-1191 FAX: 03-5461-4109 E-mail: fcs2018@jtbcom.co.jp

<http://convention.jtbcom.co.jp/fs2018/>

### 4学会合同懇親会「フォーサムサマーナイト」のご案内

フォーサム2日目の7月15日 19:30から  
 第1会場(京王プラザホテル5階エミネンスホール)  
 にて4学会合同懇親会「フォーサムサマーナイト」を  
 企画しています。お食事とドリンクに加えて、  
 アクロパチックなパフォーマンスショーなども  
 予定しています。

参加費: 事前登録 3,000円  
 当日登録 4,000円

どうかお問い合わせのうえ、ご参加ください。

# Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 54  
 Summer  
 2018

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆アイセンター新入医局員の紹介(渡邊交世) ……<1-3>
- ◆イベント情報 ……<4>
- ◆フォトアルバム ……<3>
- ◆編集部からのコメント ……<4>
- ◆フォーサム2018のご案内 ……<4>

<執筆者:括弧に明記 production:渡邊交世、津田麻祐子、仲島みずき>

## イベント情報

### <オープンカンファレンス>

2018年7月12日(木) 18:00～19:00 場所:杏林大学医学部付属病院第1病棟 情報処理室  
 「The Pathology of Ocular Disease」 Alan D. Proia先生 (Professor, Pathology, Duke University)

### <オープンカンファレンス>

2018年7月18日(水) 18:00～18:45 場所:吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間(場所にご注意ください)  
 「Management of Scleritis」 David SC Chu 先生 (Metropolitan Eye Research & Surgery Institute)

### <第3回多摩眼科3Mネットワーク>

2018年7月18日(水) 19:00～21:00 場所:吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間  
 会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

教育講演「白内障術後眼内炎と硝子体内注射後眼内炎の臨床像」 井上 真 先生(杏林大学医学部眼科学教室 教授)

特別講演 I 「OCT時代の緑内障治療戦略」 中野 匡 先生(東京慈恵会医科大学眼科学講座 教授)

特別講演 II 「感染症ぶどう膜炎の臨床と最近のトピックス」 後藤 浩 先生(東京医科大学臨床医学系眼科学分野 主任教授)

### <第14回Eye Care Strategy Seminar>

2018年9月1日(土) 17:00～19:00 場所:ヒルトン東京4階 菊の間  
 会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

特別講演 I 「病態から考える加齢黄斑変性症の最適治療」 古泉 英貴 先生 (琉球大学医学部眼科 教授)

特別講演 II 「角膜感染症の鑑別と治療」 外園千恵 先生 (京都府立医科大学眼科学教室 教授)

### <第61回西東京眼科集談会>

2018年11月10日(土) 14:30～16:30 場所:杏林大学 臨床講堂  
 会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「網膜硝子体手術update」 井上 真 先生 (杏林大学医学部眼科学教室 教授)

### <第20回西東京眼科フォーラム>

2018年11月21日(水) 19:00～21:00 場所:吉祥寺第一ホテル8F 飛鳥の間  
 会費:1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「網膜硝子体疾患関連(仮)」 村田 敏規 先生(信州大学医学部眼科学教室 教授)

## 編集部からのコメント

本年度は多くの新入局員を迎えました。志の高い医師ばかりで、改築後のアイセンターをさらに輝かしてくれと期待されます。現在、医師の働き方改革で労働環境が見直されていますが、患者に貢献することを第一とする医師の心持を大切に、お互い同士が教え合いながら学び合う働き方は発展させたいと思います。新人たちをどうぞよろしく願います。(AH)

## アイセンター新入医局員の紹介(渡邊 交世)

働き方改革の影響を受け、杏林大学病院も現在変革の最中にあります。かつては不眠不休で勤務することも医師であるならば仕方ないとされていましたが、昨今では労働者としての勤務医の精神的および肉体的な健康確保、延いては医療安全のため、時間外労働の軽減・勤務改善が病院全体としての課題となっております。長時間労働の要因には、患者への緊急対応、手術や外来の延長、勉強会など自己研鑽に関するものに加え、大学病院では診療以外に教育や研究を行うという特性が背景に存在し、個々の医師に備わる理念のみでは限界を迎えているというのが現状です。

杏林アイセンターにおいても、時間外労働過多の大きな要因となっていた当直・救急対応時間の短縮等、過大な業務を削減する対策がなされていますが、医療の質と患者を救う使命として将来の良医を育てるための教育は守りながらも、変わっていかざるを得ない変革の中で如何に大学病院としての役割を全うするか、これからの医療界全体で取り組まなければならない問題であり、医学生や若手医師も自らの問題としてこの改革を注視しています。

そのような状況の中、本年度も後期研修医および専門分野のフェローが杏林アイセンターの仲間に加わり、日々研修に励んでいます。現在後期研修医は外来班・病棟班へと分かれ、外来では問診から始まる基本的な診察および必要な検査を学び、午後は各専門外来の陪席について、日常的なものから希少なもので様々な症例を経験し、病棟では入院患者を受け持ち、手術に至った経緯をたどりながら手術の実際および術後の経過観察を行い、術前術後管理を習得しています。また手術や入院の適応になる基準なども両方を回ることにより臨床的に理解しやすいよう、外来・病棟メンバーが入れ替わりながら、外来業務と病棟業務をバランスよく学べるようにしています。また、網膜硝子体班のフェローとして来られた先生も、当アイセンターならではの大量の網膜硝子体症例を目の当たりにして、大変精力的に研修されています。どの医師も皆、日々一生懸命に診療に従事し、成長しようと努力しており、その姿を見守りながら我々も指導に力を入れています。今回はその個性豊かな新しいメンバーからの挨拶と紹介をさせていただきます。



この春に入局させて頂きました、伊藤大と申します。

杏林大学は私の母校であり、初期臨床研修も杏林大学にて経験し、眼科以外にも内科や外科をローテート出来たことで二年間でより多くのことを学びました。杏林アイセンターほど症例の豊富な施設を私は知りません。このように非常に恵まれた環境下で眼科医としてのスタートを切らせて頂けることに大変感謝しております。杏林アイセンターの先生方には学生の頃から大変の世話になっておりました。今後、少しでも医局に貢献できるように、また、患者さんの笑顔の為に、日々精進していく所存であります。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



今年度より入局させて頂きました、内田翔子と申します。

出身大学は杏林大学で、学生の頃より先生方には大変お世話になっております。幼い頃より祖父、母の姿を見て同じ眼科の道を志し入局させて頂きました。毎日色んな疾患に触れ、学ぶことが多く大変充実した日々を過ごさせて頂いております。これからも日々勉強を怠らずに頑張りたいと思いますので、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



今年度の4月より杏林大学病院眼科に入局致しました、熊谷真里子と申します。

金沢医科大学出身ですが、杏林大学病院眼科では外来患者数や手術件数がとても多く多彩な症例を経験でき、またアイセンターとして多くの専門分野を取り扱っていることから偏りなく様々な疾患を専門的に学ぶことができると考え、入局させて頂きました。クルズスをはじめとして教育面でも充実しており、眼科専門医を志す上でとても恵まれた場だと感じています。今後ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



今年度4月より入局いたしました、黄俐穎と申します。

クリニカルクラークシップで1ヶ月研修させていただき眼科入局を考え始め、ようやく入局できたことを大変嬉しく思います。多くの症例が集まるアイセンターで先輩方の背中を見ながら疾患・診療を学び、患者様の気持ちに寄り添える眼科医になれるよう日々精進いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



今年の4月から、杏林大学眼科に入局させて頂きました長堀克哉と申します。(亀田総合病院プログラム利用)。

出身は埼玉県川口市、出身大学は杏林大学です。初期研修も杏林大学病院でローテートしました。来年1年間は亀田総合病院で研修させて頂く予定です。

学生、研修医の時に眼科を回らせて頂き、教育に力を入れて下さっていると感じました。アイセンターは非常に多くの専門があり、総合的な診療に参加したいと考えて応募させて頂きました。同期も7人と多く、仲間とともに協力し、また後輩が続いてくれるように努力したいと思います。ご指導から一生懸命学び、自ら調べる姿勢を持ち続けて励んで行きたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



今年度から杏林大学病院眼科学教室に入局致しました矢田長洋と申します。

杏林大学を卒業し、静岡県立総合病院で初期臨床研修を経て今に至ります。当院アイセンターでは症例数が多いだけでなく、網膜硝子体、角膜、緑内障、加齢黄斑変性、眼窩、小児、神経、腫瘍、眼炎症、ロービジョンなど幅広い分野で専門的治療を行っているため研鑽を積むには最適な環境と思っております。また、ウェットラボやクルズスなど教育的な面でも充実しており、恵まれた環境で研修できることをうれしく思います。いろいろとご迷惑をおかけするかと思いますがよろしくお願い致します。



本年4月より杏林大学病院眼科医局に入局致しました、山本雅と申します。(亀田総合病院プログラム利用)。

大学・初期研修と杏林大学で過ごした後、現在亀田総合病院で専門研修をしております。祖父・父共に眼科医で、もともと小さい頃から眼科を志望しており、ようやくそのスタートラインに立てたところです。まだまだ分からないことばかりですが、大学とは違う環境で新たな刺激を受けつつ、アイセンターへ戻った際にもしっかりとやっていけるように日々努力して参ります。今後共にご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



この春からVRフェローとしてお世話になっております石田友香です。

今まで加齢黄斑変性症を始め強度近視、未熟児網膜症から眼腫瘍まで幅広くメディカルレチナを学んできましたが、どうしても網膜硝子体手術にひかれる思いを止められなくて、杏林アイセンターへの国内留学を志願しました。まだ入職して2カ月弱ですが、その間に沢山の重症例に、ひたむきに向き合い治療し続けるアイセンターの先生方から多くを学び、学ぶことってこんなに沢山あったんだと驚いているのと同時に、学べるありがたみを感じています。ご迷惑をおかけすること多いと思いますが、なにとぞよろしくお願い致します。

「永原由佳先生（専攻医として入局）のご挨拶文は次号にて掲載予定です」

## フォトアルバム



日本眼科学会にて次回開催の挨拶



廣田先生バイエルレチナアワードを受賞



5月10日 オープンカンファレンス 梶田雅義先生



5月16日 オープンカンファレンス 岡野敬先生